

Nursing あい

北海道看護協会十勝支部ニュース

発行者 (社)北海道看護協会十勝支部
編集責任者 光 恵子

記念号
No.100

平成31年3月発行



北海道看護協会 シンボルマーク

この度、ナーシングあい100号を記念して、今号に限り、以前掲載していた『あいなひと』を

復活！ あいなひとびと

私の看護も、 「病院完結型」から「地域完結型」へ

公益財団法人 北海道医療団 帯広西病院
看護部長 金 元 信 子

今年度「北海道社会貢献賞」を受賞され、看護において長きにわたり多大な努力をされ多くの人々に看護を通じて貢献されている素敵なおいなひとです。



Nursing あい「あいな人」が、復活ということで、大変喜んでおります。

わたくし、プラチナ Ns です。そうです、昭和・平成・そして新しい元号はわかりませんが、3つの元号に渡り、一度も仕事を中断せず（産休・育休・病休なし）病院で、看護の仕事をしており現在進行形です。

看護の仕事を始めた時は、病院がどんどん大きくなっていた時期です。新人から、ちょっと先輩になり、リーダーになり、主任に、婦長（の時代でした）へと、役割をいただきました。新しい病棟・新しい診療科が増え、新しいことを一生懸命学びました。仕事は忙しく、毎日ヘトヘトになっていましたが、新しい分野への興味や期待に、ワクワクしていました。何よりも、闘病する患者さまと共に問題に向き合い、成長させていただいたと感じています。チャンスを与えて下さった上司に、支えてくれた仲間に感謝です。

「地域完結型」へ医療が変わり始めるころ、地域医療連携室に配属となり、退院支援や

地域連携が主な役割となりました。退院支援・退院調整における意思決定支援や、「生活すること」を支援することは、看護の原点であるということを強く感じました。この時期に看護協会の支部の役員をさせていただきました。今まで受け身であった看護協会の活動が、「地域完結型医療」に応えるべく、病院という枠から、地域への広がり、ネットワークの広がりを実感致しました。特に、「看護がつながりあい、地域みんなで支えるために」と、病院・訪問看護ステーション・老健施設・行政など十勝の看護職が集まり、「在宅移行支援ナビ」作成に3年をかけて携わり作り上げていったことは、本当に貴重な体験でした。また、看看連携にとどまらず、ネットワークは多方面の分野の方々へと広がりました。

この度、北海道社会貢献賞を頂くことができましたのは、皆様のおかげと思っております。ありがとうございました。そして、これからも、十勝の力を結集しましょう！

『あいなひとびと』とし復活！！ 魅力ある3名の会員様にご協力して頂きました。

復活！ あいなひとびと

自問自答の10年 「訪問看護師にできることとは？」

訪問看護ステーション かしわのもり
統括所長 松 山 なつむ

訪問看護ステーションかしわのもりを開設後、訪問看護事業にとどまらず十勝の地域の方々のために看護を通じて貢献されている素敵なお『あいなひと』です。



2003年に鹿追町で仲間と共に、NPO法人で「訪問看護ステーションかしわのもり」を開設しました。10周年を節目に芽室町や更別村に順次サテライトを設置し、訪問看護事業以外にその時々の課題や興味を持ったことなど、守備範囲から少し越境して活動してきました。広大なエリアで、積雪厳寒の十勝。弱みに捉えがちな部分を、楽しむことができれば多少の課題や非効率なことも強みにできることを、ここ数年で実感できるようになりました。

医療だけでできることに限界があることを自覚し、ご利用者のこれまでの暮らしを医療で分断することなく、病気があっても病人にはならず地域で暮らすことをさえ、その延長線上に看取りがあります。様々な過程に寄り添うことを許されるのが訪問看護師だと思います。地域には高齢者だけではなく、障がいを抱えながら暮らしている人がいます。さらに、地域に帰って来たくても、諸事情で病院や施設で過ごしている人もいらっしゃいます。それぞれが

望む場所で暮らすために訪問看護師ができることとは、と自問自答しながらの日々です。

小規模ステーションにできることはほんの一かけら。だからこそ様々な人とつながり、その方の強みを発揮してもらえる場や役割をみつけて、次の一步につなげる。つながることが目的ではなく、「何がしたい」「何を困っている」を明確にすることで、小さな一歩が見えてきます。地域づくりは、対話から相手の困りごとの理解・可視化→課題の構造化→活動→成果。これは、情報収集→アセスメント→看護の提供→評価と、看護師が学生の時から繰り返し叩き込まれてきたサイクルと同じです。地域で活動するという曖昧でつかみどころのないことに楽しさを感じるのは、足浴の後「気持ちよかったです。ありがとうございます」と笑顔を見せていただく時の喜びと通じるのだと思っています。手と目を使った看護ケアが、いつも立ち返る原点です。

復活！ あいなひとびと

中国人看護師受け入れ奮闘記

社会医療法人 北斗 北斗病院
看護師 横谷清子

訪日外国人受け入れ国際病院に選ばれている北斗病院で教育担当者として訪日外国人のみならず看護スタッフの教育に貢献されている素敵な『あいなひと』です



私は平成29年度から中国人看護師の受け入れ支援として入職時から1年間の職場適応支援を行っています。しかし国内でも支援に関する文献が少なく手探り状態でした。

中国人は大学で看護を学んでおり、医療知識は言葉さえ分かれば全く問題無いのです。まして看護師は相手の気持ちを大切にした関わりが求められますが実際に患者と接したときそれに対応できない中国人の苦しさは十分に分かります。しかし今現場では看護師の仕事が複雑化、多様化しているなか日本人看護師が相互理解と言う異文化交流の基本を意識した協力・協働も「忙しさ」の中では大きな課題になっています。

中国人は日本人を理解しよう、日本人は仕事を分かってもらおうとお互い必死ですが、空回りしているようです。「医療現場での言葉」が中国人支援の研究から公表されたので、いまからそれを使い現場の支援を始める所です。



禁煙講演会

とき：平成30年9月21日(金)
ところ：帯広厚生病院



テーマ 「タバコ社会と医療者 私たちが変えられること」

講師 JA北海道厚生連 帯広厚生病院 新 智文 医師



禁煙対策講演会参加感想文

帯広厚生病院

保健師 宮下ひとみ

看護協会十勝支部主催の禁煙対策講演会に参加させていただきました。講演会の目的としては、看護師の喫煙率を下げることと伺っていました。私は、喫煙者ではありませんが、日頃より健診の結果をお返し

する際、保健指導の一つとして禁煙指導を実施しています。新医師の講演では、喫煙による危険性や禁煙外来などタバコにまつわるお話をしました。タバコの恐ろしい所はニコチン依存症にあるかと思います。医療職だけでなく、大体の方はタバコの危険性については十分理解している、なのに吸ってしまう所が恐いということ

に早く気づいてもらえるよう、今後の保健指導に今回の講演で得たことを活かしたいと思います。

講演会で啓蒙活動も良い取り組みだと思います。

禁煙外来受診の費用を補助などあれば、禁煙に取り組む人も増えるかと思います。

看護師職能集会

とき：平成30年9月22日(土)
ところ：帯広協会病院



テーマ 「カンフォーダブル・ケアで変わる認知症看護」

講師 国立病院機構帯広病院 精神科認定看護師 小山 典子



看護師職能集会参加感想文

社会福祉法人
北海道社会事業協会帯広病院
外来勤務

看護師 丸山 明美

超高齢化社会に於いて、その7人に1人が認知症を有していると報告されており、様々な症状からご本人が周囲から理解されず介護者も疲弊してしまう状況で医療現場では安全の確保という理由の

元、止む無く行動制限が行われている現状もあります。今回「カンフォータブル・ケアで変わる認知症看護」と題し国立病院機構帯広病院 精神科認定看護師小山典子先生の御講演がありました。

カンフォータブル・ケアとは認知症高齢者に快刺激を中心に関わることで患者さんの周辺症状の緩和・生活の質向上・援助者のモチベーションなどが期待できるとされており

り、講演の参加者数が昨年の約倍数でこの問題の関心の高さを感じました。実際のケアとしては「笑顔・敬語・目線を合わせる」など10の技術を用いて接することにより患者さんに変化が見られるとのことで、練習は必要ですが普段のケアにしっかりと意識づけを持つことにより、即現場で実践出来ると感じられる内容で臨床に戻って伝達したいと思いました。

保健師・助産師職能集会

とき：平成30年9月29日(土)
ところ：帯広第一病院



テーマ 「発達を促す＝発達障害予防の保健指導」 ～保健師・助産師から伝えてほしいこと～

講 師 北翔会 医療福祉センター札幌あゆみの園
小児発達外来 小児外来 小児科医 加藤 静恵



保健師助産師交流集会に 参加して

大樹町特別養護老人ホーム
(保健師職能) 明日見由香

乳児期の発達を促す予防的介入の重要性を考える機会がありました。

原始反射は、自然に消失せず残存するという概念があり、それが視知覚や前庭感覚、協調運動に多大な影響を及ぼすこと、また、交感神経が常に優位状態から全ての感覚にイライラする、注意散漫、刺激や光に過敏などに結びついている事を知りました。そして、はいはいについても、脳の発達や発達性精神疾患の抑止と

深い関係があるとわかり、自身の乳児健診での関わりを振り返ることとなりました。

ポジショニングや昔ながらの体を使った楽しい「遊び」が、原始反射の抑制や保護伸展反応を出現させ、発達を促す事に重要な意味があり、そしてそれが子育ての楽しさにもつながるとわかり、これは乳児期から十分に行えるよう支援する必要性を感じました。

子どもが自分の身を守れ、使い勝手の良い体になり、困りごとが少なくなるように育てることは大人たちの役目でもあり、保健師も含め支援者は発達を理解し、予防に資す

る支援を実践していくたらと強く思いました。

加藤先生、貴重なご講演、本当にありがとうございました。楽しくておもしろくて、夢中で聴いたあっという間の時間でした。またの機会を願っています。



北海道看護協会十勝支部会員数 (2019年2月10日現在)

保 健 師 93名

看 護 師 1,734名

助 産 師 74名

准 看 護 師 210名



会員総数
2,111名

編集後記

平成最後の「ナーシングあい」はいかがでしたでしょうか？

会員の皆様のご協力のもと無事 100 号を迎えることができ広報委員一同大変嬉しく思っております。記念号ということで表紙には華やかにレインボーローズを掲載致しました。

レインボーローズの花言葉は「無限の可能性」「奇跡」です。私たちが日頃行っている看護も奥が深く、さまざまな分野で貢献し続け、無限の可能性を秘めているのではないでしょうか。これからも、会員の皆様そして看護を通じて関わる多くの人々が笑顔で過ごせたらと思います。

(広報委員／中川・永井・裏南・奥田)